

みんなのひろば

Message



市民と編集担当者とのおしゃべりコーナー「みんなのひろば」です。みなさまからいただいたメッセージを紹介していきます。今回は、前号(46号)のクイズ応募ハガキからです。

▼「春から東京へ、修行してきます！」人それぞれの立場にととのユニバーサルとは何か。For you (あなたのために)の気持ちで淡路島民だけでなく日本人全員の中で考えていけたら、きっと2020年の東京オリンピックもこれからの世の中もとげとげしないで暮していけると思う。(20代)

▼「人権意識調査」からテーマ「高齢者」がとりあげていました。淡路市は超高齢化社会、私も突入していました。実母も90才をこえ、今まさに母の幸せを考えると、自宅なのか施設なのか判断する時がきました。一人では、できない事がふえ続け、ヘルパーさんに頼って家でくらししていますが、本人がどこまで頑張ってくれるのか考えこんでいます。(60代)

▼「ご意見ありがとうございます」在宅生活の継続か？施設入所か？介護問題の選択肢の中では大変難しい判断が必要ですね。ご本人を交えてそれぞれの長所や短所について、専門家の意見も参考に話し合ってみてはいかがでしょう。お母さんが困難と感じている生活行為を適切に専門職に伝えることで支援

国は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向け人権教育も、外国人・障がいのある人・性的少数者等の国民の理解を深めるための啓発活動に重点を置くそうです。「多様性の尊重」(ダイバーシティ教育)とい

の方法に工夫が生まれることはいくらでもあると思います。また、現在淡路市の高齢化率は35%を超えています。しかし、見方を変えると、高齢ゆえの知識と経験が沢山詰まった市とも言えます。高齢者に限った話ではありませんが、そんな知識や経験を地域に還元しあえる淡路市にしたいですね。

▼男性保育士さんの記事、出席されたのは南あわじ市の方でしたが、淡路市にもいらっしゃるのでしょうか？どんだん増えればいいのと思います。(60代)

現在、淡路市で働く男性保育士さんは、正規・臨職合わせて3名です。まだまだ少ない数ですが、頑張っています。少数になる男性保育士を環境が大切に包んで欲しいです。若い時だけではなく、退職年齢まで男性保育士として働く姿を見たいです。

《メッセージをお寄せください》
本紙への意見や感想、皆さまからの声を待っています。
TEL 0799-164-2521
FAX 0799-164-2565
Eメール :awaji_jinken@city.awaji.lg.jp

くらしのトピックス⑧

淡路市社会福祉協議会

北淡中学生と『ぼれぼれ』メンバー「同じ釜のうどん」を食う!!

先日、障がい者地域生活拠点『ぼれぼれ』に、北淡中学校の1年生が2日に分かれて来てくれ『ぼれぼれ』の活動を知ってもらおう発表の後、手打ちうどんづくりで交流を行いました。

『ぼれぼれ』のメンバーと中学生が小グループに分かれ、交互にうどんの生地をこね、延ばし、包丁で切ったのをゆで、みんなで食べました。出来上がったうどんは、太いものや細いもの、長いものや短く切れたものと様々でしたが、色々な食感があることが逆に美味しさを増し、全員がペロリと平らげました。

“同じ釜の飯を食う”ということわざがありますが、時間を共有することや、協働することによる共通体験は、相互の理解を育むと、改めて実感する機会になりました。また、出来上りのうどんのように、地域には色々な考え方や個性を持つ人が暮らしています。お互いを認め合うことを前提にした話し合いが生まれれば、誰もが暮らしやすい地域になると感じました。

ぼわんといい手話!!

第36回

手話は、ろうあ者が日常使用しているコミュニケーションの方法です。このコーナーでは、手話やろうあ者の生活等を紹介していきます。

「右屋」



手を丸め、親指と小指を立てる
手のひらの付け根を顎に当てる

ろうあ者の日常生活を 知ろう⑫

聴覚障害者の理解を深める場として、毎年「手話奉仕員養成講座」が開催されています。この講座では手話や聴覚障害に関する学習ができます。五月から淡路市(しづのおだまき館)他島内で開催します。詳細・お申込みは聴覚障害者センター(0799-243850)まで。

協力：淡路聴力障害者協会
手話サークル津名